

学童保育と家庭支援の課題

——鳥取市の放課後児童クラブの調査を通して——

田 丸 敏 高*¹

井 戸 垣 直 美*²

倉 地 詔 子*³

What do Parents Expect to "Gakudou Hoiku" in Tottori City?

TAMARU Toshitaka *¹, IDOGAKI Naomi *², KURACHI Noriko *³

1948年に大阪の今川学園で日本最初の学童保育が誕生した。それは、1947年に児童福祉法が制定された翌年のことであった。その後、学童保育は各地に生まれ、1950年代以降広められていった⁽¹⁾。「広辞苑 第四版」には、学童保育とは「共働き等により親が家にいない家庭の学童(低学年)を、放課後および休暇中、保育すること。一九五〇年代から民間人の手で始まり、七六年厚生省が同事業の助成を開始」と記されている。1970年代以降学童保育の開設数は急増し、現在(1996年5月)では8514か所となっている⁽²⁾。

学童保育は、「共働き・母子・父子家庭の子どもたちの放課後と学校休業日の生活を守るための」児童福祉事業であり、「親の働く権利と家族の生活を守る役割」を担っている⁽³⁾。行政の側からは「放課後児童クラブ」とも呼ばれているが、児童福祉法が1997年改定にされ、1998年4月より新しく施行されるなかで、学童保育が「放課後児童健全育成事業」として法律にはじめて明記されることになった。その第6条の二は、児童居宅生活支援事業を定義しているが、⑥で「放課後児童健全育成事業とは、小学校に就学しているおおむね十歳未満の児童であって、その保護者が労働等により昼間家庭にいないものに、政令で定める基準に従い、授業の終了後に児童厚生施設等の施設を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業をいう」と定めている。

このうち、「適切な遊び及び生活の場を与えて」という箇所は、今後の学童保育の発展を考える上で重要な意味をもっている。こうした規程を受けて、1998年4月9日付けの厚生省児童家庭局から都道府県宛の通知「放課後児童健全育成事業の実施について」⁽⁴⁾は、「市町村等は、地域における昼間保護者のいない家庭の小学校低学年児童の状況を的確に把握し、事業の対象となる放課後児童の動向を十分踏まえて実施すること」と述べている。そして、指導員の研修については、「市町

*¹学校教育講座(発達心理学) Department of Developmental Psychology

*²教育実践研究指導センター University Educational Center for Practical Studies and Teaching

*³幡病院 Hata Hospital

キーワード：学童保育・働く母親・家庭支援

村等は、児童の安全管理、生活指導、遊びの指導等について放課後児童指導員の計画的な研修を実施するもの」としている。また、活動内容として次の点を上げている。

- (1) 放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定
- (2) 遊びの活動への意欲と態度の形成
- (3) 遊びを通して自主性、社会性、創造性を培うこと
- (4) 放課後児童の遊びの活動状況の把握と家庭への連絡
- (5) 家庭や地域での遊びの環境づくりへの支援
- (6) その他放課後児童の健全育成上必要な活動

当面、こうした趣旨や活動内容を、「放課後児童健全育成事業」において実現していくことが求められるが、そのためには、事業主体である市町村には相当な努力が必要となる。たとえば、「鳥取市放課後健全育成事業実施要綱」では、「鳥取市放課後児童クラブは、昼間保護者のいない家庭の小学校低学年児童の育成・指導に資するため、遊びを主とする健全育成活動を行い、児童の心身に健全な発達をはかることを目的とする」⁽⁵⁾とされているが、ここには「生活」の視点が未だ加えられていない。

全国的にも、これまで学童保育は、親たちや指導員ならびに関係者の献身的な努力によって維持され、発展してきた⁽⁶⁾⁽⁷⁾⁽⁸⁾。鳥取市においては、1966年以來教育委員会および小学校の協力の下に学童保育が運営されてきた。現在、親や子どものニーズに応え、新・児童福祉法をふまえて、さらに学童保育を発展させていくためには、学童保育をめぐる実状を明らかにしていくことが必要ではないか。児童の放課後の生活を保障していくために、当面次のような研究が求められる。

(1) 親の労働と家庭生活の実態に関する研究

共働き、父子家庭、母子家庭等の労働と生活の実態および保育要求の内容を明らかにすることを通じて、学童保育の意義を明らかにすること

(2) 学童保育の活動内容と指導の実態に関する研究

学童保育における子どもの実態調査を通じて

- ①学童保育における指導の基本的なあり方を明らかにすること
- ②子ども集団の規模と指導員の人数との関係、指導員体制について明らかにすること
- ③学童保育で保障されるべき子どもの活動を明らかにすること（休息、栄養補給、学習、遊び、コミュニケーション、相談、表現等々）

(3) 法律の整備や行政の責任に関する研究

- ①学童保育の必要性を「子どもの権利」の視点から明確にし、学童保育における生活と遊びの保障、教育と発達の権利等について理念的に明らかにすること
- ②保育所や学校の設置基準等と比較検討しつつ、施設設備等の最低基準を明らかにし、行政の責任を明確にすること

以上の研究が求められていると考えるが、こうしたなか本研究では、鳥取市の学童保育について、親の労働と家庭生活の実態に関する調査を行い、学童保育のニーズを明らかにし、家庭支援のあり方について検討しようとするものである。

調査 I

目的

鳥取市には、1997年1月現在9カ所の放課後児童クラブ（学童保育）が開設されているが、その現状と基礎的なニーズはいかなるものであろうか。本調査では、子どもを学童保育に参加させている保護者にアンケート調査を実施し、母親の勤務条件と生活の特徴、子どもの生活、保育内容についての要望を明らかにする⁽⁹⁾。

方法

調査対象 鳥取市において、放課後児童クラブに参加している児童の保護者240人

調査時期 1997年1月～2月

手続き 鳥取市の9つの放課後児童クラブを通じて、アンケートを保護者に配布し回収する。

結果と考察

回収数は、176部（73.3%）であった。回答者は、父親10人（5.7%）、母親166人（94.3%）であった（表A）。また、年齢は、20代が12人（6.8%）、30代が128人（72.7%）、40代が31人（17.6%）、50代が1人（0.6%）、無記入が4人（2.3%）であった（表B）。

表A 回答者

父	10 (5.7)
母	166 (94.3)
合計	176

人 (%)

表B 回答者の年齢

20代	12 (6.8)
30代	128 (72.7)
40代	31 (17.6)
50代	1 (0.6)
無記入	4 (2.3)

人 (%)

1. 母親の勤務状況

ここでは、母親の勤務状況について取り上げ、分析する。

(1) 母親の仕事の形態

【あなたの仕事の形態を教えてください】

この項目の回答者のうち「外勤」と答えた人が127人（79.9%）、「内勤」が28人（17.6%）であった（表1-1）。

表1-1 母親の仕事の形態

外勤	127 (79.9)
内勤	28 (17.6)
専業主婦	4 (2.5)

人 (%)

(2) 母親の勤務形態

【あなたの勤務形態を教えてください】

「常勤」（交替制勤務を含む）と答えた人が117人（95.1%）、「非常勤」が6人（4.9%）であった（表1-2）。

表1-2 母親の勤務形態

常勤（交代制を含む）	117 (95.1)
非常勤	6 (4.9)

人 (%)

(3) 母親の出勤時刻

【定時なら、何時頃家を出ますか？】

有効回答数125についてみると、最も早い人が午前6時30分、最も遅い人が午前9時50分で、平均出勤時刻は午前8時11分

表1-3 母親の出勤時刻

最も早い人	午前6時30分
最も遅い人	午前9時50分
平均	午前8時11分

であった（表1-3）。

（4）母親の帰宅時刻

【定時なら、帰宅時間は何時頃ですか？】

有効回答数124についてしてみると、最も早い人が午後3時30分、最も遅い人が午後7時で、平均帰宅時刻は午後5時36分であった（表1-4）。

表1-4 母親の帰宅時刻

最も早い人	午後3時30分
最も遅い人	午後7時
平均	午後5時36分

（5）母親の休日出勤

【休日に出勤することはありますか？】

「ある」と答えた人は54人（43.9%）であった（表1-5）。

表1-5 母親の休日出勤

ある	54 (43.9)
ない	69 (56.1)

人 (%)

（6）母親の持ち帰りの仕事

【家に持ち帰って仕事をすることがありますか？】

「ある」と答えた人は48人（37.8%）であった（表1-6）。

表1-6 母親の持ち帰りの仕事

ある	48 (37.8)
ない	79 (62.2)

人 (%)

（7）母親の時間外勤務

【残業をすることがありますか？】

「ある」と答えた人は75人（59.1%）であった（表1-7）。なお、一人当たりの平均残業回数は週2.3回であった。

表1-7 母親の時間外勤務

ある	75 (59.1)
ない	52 (4.9)

人 (%)

（8）母親の勤務時間

【実際に仕事をする時間は1日何時間くらいですか？】

最も長い人は12時間、最も短い人は1時間、平均勤務時間は7.6時間であった（表1-8）。

表1-8 母親の勤務時間

最も長い人	12 時間
最も短い人	1 時間
平均	7.6時間

（9）母親の勤務日数

【1週間のうち仕事をするのは何日ですか？】

最も多い人は7日、最も少ない人は4日、平均勤務日数は週5.4日であった（表1-9）。

表1-9 母親の勤務日数

最も多い人	7 日/週
最も少ない人	4 日/週
平均	5.4日/週

2. 母親の生活

ここでは、母親の生活について取り上げ、分析する。

（1）母親の平日の起床時刻

【あなたの平日の起床時刻は何時頃ですか？】

最も早い人は午前5時、最も遅い人は午前7時で、平均起床時刻は午前6時18分であった（表1-10）。

表1-10 母親の平日の起床時刻

最も早い人	午前5時
最も遅い人	午前7時
平均	午前6時18分

（2）母親の平日の就寝時刻

【あなたの平日の就寝時刻は何時頃ですか？】

最も早い人は午後8時15分、最も遅い人は午前1時30分で、平均就寝時刻は午後11時14分であった(表1-11)。

表1-11 母親の平日の就寝時刻

最も遅い人	午前 1時30分
最も早い人	午後 8時15分
平均	午後11時14分

(3) 母親の夕食の準備

【あなたは週に何回夕食の準備をしますか?】

最も多い人は週7回、最も少ない人は週1回、平均は週6.6回であった(表1-12)。

表1-12 母親の夕食準備回数

最も少ない人	1 回/週
最も多い人	7 回/週
平均	6.6回/週

(4) 母親が夕食の準備をしないとき

【あなたが夕食の準備をしないときどうしていますか?】

「外食をする」と答えた人が72人、「買った物ですます」と答えた人が62人、「他の人が作る」と答えた人が49人であった(表1-13)。

表1-13 母親が夕食準備をしないとき
(複数回答)

外食をする	72
買った物ですます	62
他の人が作る	49
出前をとる	3
その他	9

人

(5) 母親が子どもと夕食をとる回数

【あなたは週に何回子どもと夕食をとりますか?】

最も多い人が7回、最も少ない人が1回、平均が6.6回であった(表1-14)。

表1-14 母親が子どもと夕食をとる回数

最も少ない人	1 回/週
最も多い人	7 回/週
平均	6.6回/週

(6) 母親の夕食のとり方

【どんな様子で夕食をとりますか?】

「話をしながら」と答えた人が65人(67.0%)、「テレビを見ながら」と答えた人が31人(31.0%)であった(表1-15)。

表1-15 母親の夕食のとり方

話をしながら	65 (67)
テレビを見ながら	31 (32)
その他	1 (1)

人 (%)

(7) 母親の夕食後の活動

【夕食を食べた後何をすることが多いですか?】

「後片づけ」が154人(92.8%)、「お風呂に入る」が118人(71.1%)、「テレビを見る」が107人(64.5%)、「子どもと話をする」が92人(55.4%)、「洗濯・掃除をする」が68人(41.0%)、「寝る」が20人(12.0%)、「持ち帰った仕事をする」が15人(9%)であった(表1-16)。

表1-16 夕食後の母親の活動(複数回答)

後片づけ	154 (92.8)
お風呂にはいる	118 (71.1)
テレビを見る	107 (64.5)
子どもと話をする	92 (55.4)
洗濯・掃除をする	68 (41.0)
寝る	20 (12.0)
持ち帰った仕事をする	15 (9.0)
うたた寝をする	8 (4.8)
その他	9 (5.4)

人 (%)

(8) 母親の休日の過ごし方

【休みの日は何をしていることが多いですか？】

「掃除」が75人(45.2%)、「買い物」が44人(26.5%)、「子どもと一緒に遊ぶ」が42人(25.3%)、「洗濯」が40人(24.1%)であった(表-17)。

表1-17 母親の休日の過ごし方

掃除	75 (45.2)
買い物	44 (26.5)
子どもと一緒に遊ぶ	42 (25.3)
洗濯	40 (24.1)
外出	15 (9.0)
持ち帰った仕事をする	5 (3.0)
その他	5 (3.0)

人 (%)

3. 子どもの生活

ここでは、子どもの生活について分析する。

(1) 子どもの平日の起床時刻

【あなたのお子さんは、ふだん何時頃に起床しますか？】

最も早い人は午前6時、最も遅い人は午前7時30分で、平均起床時刻は午前6時48分であった(表1-18)。

表1-18 子どもの平日の起床時刻

最も早い人	午前6時
最も遅い人	午前7時30分
平均	午前6時48分

(2) 子どもの平日の就寝時刻

【あなたのお子さんは、ふだん何時頃に就寝しますか？】

最も早い人は午後8時、最も遅い人は午後11時で、平均就寝時刻は午後9時30分であった(表1-19)。

表1-19 子どもの平日の就寝時刻

最も早い人	午後8時
最も遅い人	午後11時
平均	午後9時30分

(3) 子どもの家庭学習

【あなたのお子さんはどのようにして家庭学習をしていますか？】

「学童保育で」と答えた人が58人(53.7%)、「自分で」と答えた人が35人(32.4%)、「親と一緒に」と答えた人が14人(13.0%)であった(表1-20)。

表1-20 子どもの家庭学習

学童保育で	58 (53.7)
自分で	35 (32.4)
親と一緒に	14 (13.0)
その他	1 (0.9)

人 (%)

(4) 子ども部屋

【子ども部屋はありますか？】

「はい」と答えた人が11人(20.0%)、「いいえ」と答えた人が44人(80.0%)であった(表1-21)。

表1-21 子ども部屋

はい(ある)	11 (20.0)
いいえ(ない)	44 (80.0)

人 (%)

(5) 塾や習い事

【あなたのお子さんは塾や習い事をしていますか？それは何ですか？】

「はい」と答えた人が95人(56.5%)、「いいえ」と答えた人が73人(43.5%)であった(表1-22)。なお、習い事で多いものは、「ピアノ・エレクトーン」35人、「水泳」24人、「学習塾」22人、「習字」15人、「珠算」4人であった(表1-23)。

表1-22 子どもの塾や習い事

している	95 (56.5)
していない	73 (43.5)

人 (%)

表1-23 子どもの塾や習い事

(複数回答)

ピアノ・エレクトーン	35
水泳	24
学習塾	22
習字	15
珠算	4
その他	10

人

(6) 子どもの休日の過ごし方

【あなたのお子さんは、ふだん日曜日に、友達の所に出かけますか?】

「はい」と答えた人が89人 (53.0%), 「いいえ」と答えた人が79人 (47.0%) であった (表1-24)。

表1-24 子どもの休日の過ごし方

はい (出かける)	89 (53.0)
いいえ (出かけない)	79 (47.0)

人 (%)

(7) 子どもの手伝い

【あなたのお子さんは手伝いを頼んだとき、快く手伝ってくれますか?】

「いつもしてくれる」が23人 (13.6%), 「たいていしてくれる」が80人 (47.3%), 「したりしなかったり」が55人 (32.6%), 「あまりしない」が11人 (6.5%) であった (表1-25)。

表1-25 お手伝い

いつもしてくれる	23 (13.6)
たいていしてくれる	80 (47.3)
したりしなかったり	55 (32.6)
あまりしない	11 (6.5)
ぜんぜんしない	0 (0)

人 (%)

(8) 学校の話

【あなたのお子さんは、学校であったことをよく話しますか?】

「はい」と答えた人が127人 (74.7%), 「いいえ」と答えた人が43人 (25.3%) であった (表1-26)。

表1-26 学校の話

はい (話す)	127 (74.7)
いいえ (話さない)	43 (25.3)

人 (%)

(9) 学童保育の話

【あなたのお子さんは、学童保育の様子をよく話しますか?】

「はい」と答えた人が103人 (74.7%), 「いいえ」と答えた人が64人 (31.3%) であった (表1-27)。

表1-27 学童保育の話

はい (話す)	103 (74.7)
いいえ (話さない)	64 (31.3)

人 (%)

4. 保育内容についての要望

【学童保育の内容について、「1. そう思う 2. そう思わない 3. わからない」のうち、あなたの気持ちに最も当てはまるものに○をつけて下さい。】

「そう思う」と答えた人が多かった項目は、「宿題の時間確保」84人 (48.8%), 「後片づけの指

表1-28 学童保育への要望

	そう思う	そう思わない	わからない
宿題の時間を確保してほしい	84 (48.8)	74 (43.1)	14 (8.1)
後片づけの指導をしてほしい	69 (40.0)	82 (47.3)	22 (12.7)
指導員の数を増やしてほしい	60 (35.3)	83 (48.8)	27 (15.9)
連絡活動(連絡帳)を活発にしてほしい	56 (32.7)	91 (53.2)	24 (14.1)
勉強の指導をしてほしい	56 (32.6)	97 (56.4)	19 (11.0)
土曜日も学童保育をしてほしい	55 (31.8)	111 (64.2)	7 (4.0)
おやつの内容を充実させてほしい	50 (28.9)	102 (59.0)	21 (12.1)
通信の内容を充実させてほしい	39 (23.1)	105 (62.1)	25 (14.8)
通信の数を増やしてほしい	29 (16.9)	114 (66.3)	28 (16.8)
親子参加のイベントの内容を充実させてほしい	28 (16.9)	105 (63.2)	33 (19.9)
1日の保育時間を延長してほしい	24 (14.0)	135 (79.0)	12 (7.0)
親子参加のイベントの数を増やしてほしい	18 (10.4)	126 (72.8)	29 (16.8)
爪切りなど身なりを整えてほしい	11 (6.5)	144 (85.2)	14 (8.3)
おやつを量を増やしてほしい	6 (3.4)	154 (88.5)	14 (8.1)
おやつを時間を早くしてほしい	4 (2.3)	138 (79.9)	31 (17.8)

人 (%)

導」69人(40.0%)、「指導員の増加」60人(35.3%)、「活発な連絡活動」56人(32.7%)、「勉強の指導」56人(32.6%)、「土曜日の学童開放」55人(31.8%)、「おやつの内容充実」50人(28.9%)などであった(表1-28)。

調査Ⅱ

目的

学童保育の現状と家庭支援のニーズを明らかにするためには、子どもと親の関わり、親同士の関わり、指導員との関わり、市との関わりなど多様な関係において、親が何をどのように考えているか示す必要がある。そのため、本調査では、鳥取市の学童保育に参加している児童の保護者に再度アンケート調査を実施し、親が子どもと学童保育との関係をどう捉えているか、学童保育をめぐる意思疎通どのように評価しているか、指導員についてどのように考えているか、学童保育のあり方についてどのように考えるか、市に何を求めているか、について明らかにしようとするものである。

そして、調査Ⅰと調査Ⅱの結果を踏まえて、親の就労保障と子どもの生活保障という点からみた学童保育の意義について考察する。さらに、家庭支援という観点から指導員の役割や市の役割と責任について検討を加えたい。

方法

調査対象 鳥取市において、放課後児童クラブに参加している児童の保護者96人

調査時期 1998年1月～2月

手続き 鳥取市の4つの放課後児童クラブを通じて、アンケートを保護者に配布し回収する。

結果と考察

回収数は、85部 (88.5%) であった。回答者は、父親7人 (8%)、母親77人 (90%)、その他1人 (1%) であった。また、年齢は、20代が5人 (6%)、30代が59人 (69%)、40代が20人 [24%]、無記入が1人 (1%) であった。

表C アンケート記入者

母	77(91)
父	7(8)
その他	1(1)
合計	85

人 (%)

表D アンケート記入者の年齢

20代	5 (6)
30代	59 (69)
40代	20 (24)
無記入	1 (1)

人 (%)

1. 子どもと学童保育

(1) 子どもは学童保育が好きか

【あなたのお子さんは学童保育が好きですか？】

「とても好き」と答えた人が31人 (36%)、「まあまあ好き」と答えた人が32人 (38%)、「どちらとも言えない」と答えた人が13人 (15%)、「あまり好きではないようだ」と答えた人が9人 (11%)、「嫌がっている」と答えた人が0人であった (表2-1)。

表2-1 子どもは学童が好きか

	1年生	2年生	3年生以上	計
とても好き	20	7	4	31 (36)
まあまあ好き	14	13	5	32 (38)
どちらとも言えない	5	6	2	13 (15)
あまり好きではないようだ	3	4	2	9 (11)
嫌がっている	0	0	0	0 (0)

人 (%)

(2) 学童保育をやめさせたいか

【お子さんに学童保育をやめさせたいと思うことはありますか？】

「よくある」と答えた人が2人 (2%)、「ときどきある」と答えた人が7人 (8%)、「たまにある」と答えた人が19人 (22%)、「ない」と答えた人が57人 (68%) であった (表2-2)。

表2-2 学童をやめさせたいか

よくある	2 (2)
ときどきある	7 (8)
たまにある	19 (22)
ない	57 (68)

人 (%)

(3) 学童保育に入れてよかったか

【お子さんを学童保育に入れてよかったと思いますか？】

「思う」と答えた人が78人 (92%)、「どちらとも言えない」と答えた人が7人 (8%)、「思わない」と答えた

表2-3 学童に入れて良かったか

思う	78 (92)
どちらとも言えない	7 (8)
思わない	0 (0)

人 (%)

人が0人だった（表2-3）。

2. 意思疎通

(1) 子どもとの意思疎通

【お父さんとの意思疎通についていかがでしょうか。】

「ほほうまくいっていると思う」と答えた人が61人（73%）、「どちらとも言えない」と答えた人が21人（25%）、「あまりうまくいっていないと思う」と答えた人が2人（2%）であった（表2-4）。

表2-4 子どもとの意思疎通

ほほうまくいっていると思う	61 (73)
どちらとも言えない	21 (25)
あまりうまくいっていないと思う	2 (2)

人 (%)

(2) 学童保育の内容を知っているか

【あなたは学童保育の内容を知っていますか？】

「よく知っている」と答えた人が11人（13%）、「だいたい知っている」と答えた人が60人（72%）、「あまり知らない」と答えた人が7人（9%）、「全く知らない」と答えた人が0人であった（表2-5）。

表2-5 学童の内容を知っているか

よく知っている	11 (13)
だいたい知っている	60 (72)
どちらとも言えない	5 (6)
あまり知らない	7 (9)
全く知らない	0 (0)

人 (%)

(3) 子どもの帰宅方法

【あなたのお父さんはどのようにして帰宅しますか？】

「親が迎えに行く」と答えた人が20人（24%）、「友達と集団下校する」と答えた人が39人（46%）、「一人で帰る」と答えた人が16人（19%）であった（表2-6）。

表2-6 子どもの帰宅方法

親が迎えに行く	20 (24)
友達と集団下校する	39 (46)
一人で帰る	16 (19)
その他	10 (11)

人 (%)

(4) 親どうしの意思疎通

【親どうしの意思疎通についていかがでしょうか。】

「ほほうまくいっていると思う」と答えた人が13人（16%）、「意思疎通がうまくいっているのは一部だと思う」と答えた人が48人（58%）、「あまりうまくいっていないと思う」と答えた人が22人（26%）であった（表2-7）。

表2-7 親同士の意思疎通

ほほうまくいっていると思う	13 (16)
意思疎通がうまくいっているのは一部だと思う	48 (58)
あまりうまくいっていないと思う	22 (26)

人 (%)

(5) 考え方は指導員に伝わっているか

【あなたの保育に対する考え方は指導員に伝わっていると思いますか？】

「ほぼ伝わっていると思う」と答えた人が39人(47%), 「一部は伝わっていると思う」と答えた人が34人(40%), 「あまり伝わっていないと思う」と答えた人が11人(13%)であった(表2-8)。

表2-8 指導員との意思疎通

ほぼ伝わっていると思う	39 (47)
一部伝わっていると思う	34 (40)
あまり伝わっていないと思う	11 (13)

人 (%)

(6) 指導員との意思疎通(複数回答)

【あなたは指導員との意思疎通をどのようにして行っていますか？】

「連絡ノート」が69人(81%), 「通信・ニュース」が10人(12%), 「電話」が12人(14%)であった(表2-9)。

表2-9 指導員との意思疎通の方法(複数回答)

連絡ノート	69 (81)
通信・ニュース	10 (12)
電話	12 (14)

人 (%)

(7) 学童保育(親の会)と学校との意思疎通

【学童保育(親の会)と学校との意思疎通についてどのように思いますか？】

「ほぼうまくいっていると思う」と答えた人が12人(15%), 「どちらとも言えない」と答えた人が45人(57%), 「あまりうまくいっていないと思う」と答えた人が22人(28%)であった(表2-10)。

表2-10 学童保育(親の会)と学校との意思疎通

ほぼうまくいっていると思う	12 (15)
どちらとも言えない	45 (57)
あまりうまくいっていないと思う	22 (28)

人 (%)

3. 指導員

(1) 指導員の身分

「市の正規職員にすべきだと思う」と答えた人が49人(62%), 「市の嘱託のような身分がいい」と答えた人が22人(28%), 「親の会の雇用がいい」と答えた人が3人(4%), 「その他」が5人(6%)であった(表2-11)。

表2-11 指導員の身分

市の正規職員にすべきだと思う	49 (62)
市の嘱託のような身分がいい	22 (28)
親の会の雇用がいい	3 (4)
その他	5 (6)

人 (%)

(2) 指導員の給与

「公的援助によってあげるべきだと思う」と答えた人が72人(88%), 「親の支払う保育料を増やしてあげる」と答えた人が0人, 「今のままでも仕方がない」と答えた人が5人(6%), 「その他」と答えた人が5人(6%)であった(表2-12)。

表2-12 指導員の給与

公的援助によってあげるべきだと思う	72 (88)
今のままでも仕方がない	5 (6)
親の支払う保育料を増やしてあげる	0 (0)
その他	5 (6)

人 (%)

(3) 指導員の人数

「複数名必要だと思う」と答えた人が82人(98%),「子どもの数が少なければ一人でもいいと思う」と答えた人が1人(1%),「その他」が1人(1%)であった(表2-13)。

表2-13 指導員の人数

複数名必要だと思う	82 (98)
子どもの数が少なければ一人でもいいと思う	1 (1)
その他	1 (1)

人(%)

(4) 指導員への要望(複数回答)

要望の多い順に並べると、「保育に対する意見をもっと積極的に知らせてほしい」と答えた人が23人(27%),「市への交渉など積極的に取り組んでほしい」と答えた人が10人(12%),「親ともっと連絡をとってほしい」と答えた人が7人(8%),「指導員同士がもっとしっかりしてほしい」と答えた人が5人(6%),「親子参加の行事をもっとやってほしい」と答えた人が3人(4%)であった。

なお、「特に要望はない」と答えた人が16人(19%)あった(表2-14)。

表2-14 指導員への要望(複数回答)

保育に対する意見をもっと積極的に知らせてほしい	23 (27)
市への交渉など積極的に取り組んでほしい	10 (12)
親ともっと連絡をとってほしい	7 (8)
指導員同士がもっとしっかりしてほしい	5 (6)
親子参加の行事をもっとやってほしい	3 (4)
その他	3 (4)
特に要望はない	16 (19)

人(%)

4. 学童保育の在り方

(1) 休み中の学童保育

【休み中の保育について現在利用しているものについて〇をつけてください。】

「夏休み」が71人(84%),「冬休み」が33人(39%),「春休み」が28人(33%)であった(表2-15)。

表2-15 休み中の学童(複数回答)

夏休み	71 (84)
冬休み	33 (39)
春休み	28 (33)

人(%)

(2) 保育時間

【保育時間はちょうどいいですか?】

「ちょうどいい」と答えた人が62人(74%),「もっと長くしてほしい」と答えた人が22人(26%)であった(表2-16)。

表2-16 保育時間

ちょうどいい	62 (74)
もっと長くしてほしい	22 (26)

人(%)

(3) 4年生以上の子どもの受け入れ

「積極的に受け入れてほしい」と答えた人が24人(31%),「どうしても必要なときだけは受け入れてほしい」と答えた人が44人(57%),「無理だと思う」と答えた人が7人(9%),「その他」が2人(3%)であった(表2-17)。

表2-17 4年生以上受け入れ

積極的に受け入れてほしい	24 (31)
どうしても必要なときだけは受け入れてほしい	44 (57)
無理だと思う	7 (9)
その他	2 (3)

人(%)

(4) 保育に対する要望(複数回答)

【13の項目のうち、保育に対して要望するものに○をつけてください。】

保育に対する要望について、とくに多いものをあげると、「保育時間をもっと長くしてほしい」が21人(25%),「土曜日も保育してほしい」が17人(20%),「冬休みや春休みも保育してほしい」が17人(20%),「宿題をやらせてほしい」が16人(19%)あった。その他の希望も切実なものであるが、保育時間に関わることに大きな要望が出ていることが特徴的である(表2-18)。

表2-18 保育に対する要望(複数回答)

保育時間をもっとながくしてほしい	21 (25)
土曜日も保育してほしい	17 (20)
冬休みや春休みも保育してほしい	17 (20)
宿題をやらせてほしい	16 (19)
勉強を見てほしい	12 (14)
指導員の数を増やしてほしい	12 (14)
連絡を密にしてほしい	11 (13)
遊びの工夫をしてほしい	10 (12)
子どもの話し相手になってほしい	9 (11)
おやつ工夫をしてほしい	7 (8)
親の相談相手になってほしい	5 (6)
親子行事を増やしてほしい	3 (4)
お便りなどをもっと出してほしい	3 (4)

人(%)

(5) 親の保育料負担

「現在以上に保育料を増額されたら学童保育を続けるのは難しい」と答えた人が21人(27%),「苦しいが、子どもたちにとって必要ならば多少の増額は仕方がない」と答えた人が40人(51%),「お金のことよりも保育の充実を優先させて考えてほしい」と答えた人が16人(20%),「その他」が2人(3%)であった。「子どものためならば、多少苦しくても」というのが多くの親の気持ちではあるが、それに頼っているのでは、「放課後の生活保障をどの子どもに対しても等しく」という児童福祉の理念には届かない(表2-19)。

表2-19 親の保育料負担

現在以上に保育料を増額されたら学童保育を続けるのは難しい	21 (27)
苦しいが、子ども達にとって必要ならば多少の増額は仕方がない	40 (51)
お金のことよりも保育の充実を優先させてほしい	16 (20)
その他	2 (3)

人 (%)

5. 市への要望

市への要望を「1. とても思う 2. 少し思う 3. どちらとも言えない 4. あまり思わない 5. まったく思わない」の5肢選択で聞いたところ、ほとんどが切実な要望であることがわかった。「とても思う」と答えた人の人数と割合を掲げると、「学童保育の実状をもっと知ってほしい」が72人(89%)、「学童保育の場が安心して確保できるよう、教育委員会や学校ときちんと連絡を取ってほしい」と答えた人が70人(85%)、「学童保育に対してきちんとしてほしい」と答えた人が69人(85%)、「学童保育の専用場を確保してほしい」と答えた人が66人(81%)、「指導員の身分保障をしてほしい」と答えた人が65人(80%)、「学童保育に対する市の考え方をきちんと知らせてほしい」と答えた人が55人(68%)、「保護者との懇談会を開いてほしい」が22人(27%)であった(表2-20)。

表2-20 市への要望

	とても思う	少し思う	どちらとも言えない	あまり思わない	全く思わない
市に学童保育の現状についてもっと知ってほしい	72 (88)	10 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
学童保育の場が安心して確保できるよう、教育委員会や学校ときちんと連絡を取ってほしい	70 (85)	11 (15)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
学童保育に対して市がきちんとしてほしい	69 (85)	12 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
学童保育専用場を確保してほしい	66 (81)	14 (17)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
市が指導員の身分を保障してほしい	65 (80)	8 (10)	7 (9)	1 (1)	0 (0)
学童保育に対する市の考え方をきちんと知らせてほしい	55 (68)	19 (23)	3 (4)	4 (5)	0 (0)
市と保護者との懇談会を開いてほしい	22 (27)	23 (28)	30 (37)	5 (6)	1 (1)

全体的討論

調査Ⅰでは、母親の勤務状態と生活の特徴、子どもの生活、保育内容についての要望を明らかにした。調査Ⅱでは、子どもと学童保育との関わり、学童保育をめぐる意思疎通、指導員について、

学童保育のあり方、鳥取市への要望を明らかにした。ここでは、資料全体から、4つの問題にしばって検討を進めたい。

第1に、親の就労保障という点から学童保育の意義についてである。第2に、子どもの生活保障にとつての学童保育の意味についてである。第3に家庭支援という視点みた指導員の役割についてである。第4に、行政の役割と責任についてである。

学童保育は、親とりわけ母親の就労保障という意義をもっている。今回の調査から、まず母親のほとんど(95%以上)が常勤であり、平均出勤時刻が午前8時11分、平均帰宅時刻が午後5時36分であることが示された。また、半数近くの人(44%)が休日に出勤することもあり、3分の1以上(38%)の人が持ち帰りの仕事があり、時間外勤務も6割(59%)の人がある。母親の勤務日数も平均週5.4日であり、かなりの長時間労働を行っているということがわかる。母親の平日の平均起床時刻は午前6時18分であり、平均就寝時刻は午後11時14分であるが、仕事から帰宅して後の家事の忙しさが伺える。それでも母親の夕食準備回数および子どもと一緒に夕食をとる回数が平均週6.6回ということから、ほとんどの母親が毎日夕食の準備をして、子どもと一緒に食事していることがわかる。同じように母親が働いていても祖父母が家にいて学童保育を必要としない家庭との違いがあると思われる。また、夕食は「子どもと話をしながら」という人が3分の2(67%)であり、夕食後の母親の活動の中で、「後片づけ」や「お風呂に入る」等と並んで、「子どもと話をする」が55%みられることから、親が子どもとのコミュニケーションをとろう努力している様子が浮かび上がってくる。しかし、休日は家事等に追われ、「子どもと一緒に遊ぶ」という回答が4分の1(25%)しかないのも特徴的である。

学童保育は、子どもにとっては、放課後を安全で健全な子どもらしい生活を保障してくれる場である。今回の調査にみられる子どもの生活状況であるが、平日の子どもの平均起床時刻は午前6時48分、平均就寝時刻は午後9時30分であった。学童保育から帰るのが5時30分頃であろうから、寝るまでの間約4時間ほど家で過ごすことになる。風呂や食事、身支度の時間を除けば、自由になる時間は2時間ないし3時間ということになろう。もっとも、塾や習い事をしている子どもが57%であるので、拘束されていない自由時間ももっと短くなると思われるし、曜日によっては自由な時間がほとんどないということになる。小学校低学年の体力を考えれば、疲れもたまるであろうし、学校や学童保育という他人の目を意識した生活の中でストレスも相当なものであろう。こうしたことから、学童保育においては、「遊びの活動への意欲と態度の形成」をしたり、「遊びを通して自主性、社会性、創造性を培うこと」ももちろん重要であろうが、それだけでなく、休息の場と時間を保障したり、指導員との何気ない会話の中で気持ちをリラックスさせることなどの意義も大きいと考えられる。複雑な人間関係と緊張感のもと、「むかつく」「いらつく」というような言葉が子どもの口から発せられることが多いが、休息を含む学童保育の生活面の充実が子どもたちの人間性の回復に果たす役割も大きいのではないかと。また、学童保育においては、遊びという活動も子どものさまざまな能力の成長という点からだけでなく、気分のリフレッシュや心地よい気持ちの体験という点からも捉え直してみる必要があるのではないかと。

学童保育は、家庭支援の役割を担っている。親は、家庭では親子らしい関わりを持ちたいと思う。そのためには、「宿題をこなさい」とか「手伝いをこなさい」などと子どもを追い立てるようなことばかりに時間を使いたくはない。そこから、学童保育に対しては、「宿題の時間を確保してほしい」(49%)とか「後片づけの指導をしてほしい」(41%)などの要求が、比較的高い回答率となつて現れるのではないだろうか。しかし、本当に家庭支援を見通した保育は、現在の環境的条件、人

的條件、財政的條件、制度的條件のもとで実現するには困難を抱え過ぎている。調査Ⅱの「意思疎通」を取り出しみても、「親同士の意思疎通」で「ほぼうまくいっていると思う」と回答した人は16%であるし、「学校との意思疎通」では15%である。81%の人が連絡ノートを使って指導員と連絡を取り合っていて、「学童保育内容を知っているか」という質問に対し、「よく知っている」と「だいたい知っている」とを合わせると85%になるが、それでも「親の考え方が指導員に伝わっているか」という質問には「ほぼ伝わっていると思う」と答えた人は47%にとどまっている。学童保育をめぐる意思疎通を図っていくという課題を、日々の仕事と生活に追われている親の努力に任せておくことでは解決困難である。指導員には子どもと直接関わる仕事だけでなく、さまざまな形で意思疎通を図り家庭支援のための活動を行っていくことが求められていると言える。しかし、そのためには指導員の身分や給与を現状のままに放置するのではなく、専門的な職務内容にふさわしく改善していくことが必要である。そのため、市の正規職員や嘱託にすべきだという考え方（90%）に現れたり、指導員の給与を公的援助によってあげるべきだという考え方（88%）に現れているのだと思われる。また、指導員の仕事の性格上、常時複数名必要だというのはほぼ全員（98%）の一致するところとなっている。

学童保育を充実させていくためには、事業主体である市の役割が大きい。厚生省の通知では、「市町村等は、地域における昼間保護者のいない家庭の小学校低学年児童の状況を的確に把握し、事業の対象となる放課後児童の動向を十分踏まえて実施すること」とあるが、調査Ⅱにおける市への要望の中でも「学童保育の現状についてもっと知ってほしい」という質問に対し、89%の人が「とても思う」と回答しているし、さらに「少し思う」を加えれば99%を越えることになる。現状を知るということは、単に何人が学童保育に参加しているかとかどこでやっているかなどについて把握していればすむというよう事柄ではない。それは、子どもの生活や心理、学童保育や指導員の果たしている役割、学童保育の環境的條件、その背景にある家庭や学校等々について、事実を調べることによってはじめて可能になる。そのため、子どもたちに放課後どのような生活を保障する必要があるのかということに対して見識を持つ必要があり、そこから児童福祉法に則った制度的整備が可能になっていく。学童保育を子どもの休息や学習、遊びなど活動が保障される場にふさわしいものに発展させていくためには、スペースや備品などの外的整備を中心に最低基準を明らかにしていく必要がある。親は学童保育に対して「財政的な援助をしてほしい」（「とても思う」が85%）と言うし、「教育委員会や学校と連絡をとってほしい」（「とても思う」が85%）と言う。また、「学童保育専用の場を確保してほしい」（「とても思う」が81%）と言うし、「指導員の身分保障をしてほしい」（「とても思う」が80%）と言う。これらの切実さは決して根拠のないものではないし、何も調べないうちから財政的な理由をもって片づけてしまえるものではない。

さいごに、今回の調査で「子どもは学童保育が好きか」という質問に対し、「好き」と「まあまあ好き」とを合わせて74%になっている。現在の貧しい条件のもとで行われている学童保育に対しても、これだけの子どもの期待の大きさを親は感じ取っている。大人はこれに答えていくことが求められているのではないだろうか。

文 献

- (1)全国学童保育連絡協議会編 学童保育年報 No1 一声社 1978
- (2)日本子どもを守る会編 子ども白書1997 草土文化 1997
- (3)全国学童保育連絡協議会編 学童保育ハンドブック 一声社 1995
- (4)厚生省児童家庭局育成環境課長 放課後児童健全育成事業の実施について 児環第26号 1998
- (5)鳥取市児童家庭課 鳥取市放課後児童健全育成事業実施要綱 1998
- (6)大阪保育研究所編 学童保育の生活と指導 一声社 1993
- (7)小木美代子ほか 児童館と学童保育 萌文社 1994
- (8)小木美代子ほか 児童館・学童保育と居場所づくり 萌文社 1995
- (9)1996年度田丸ゼミ 発達心理学ゼミ報告書「とっとりの学童保育」 1997

謝辞

本研究においては、鳥取市の各児童クラブの指導員の先生方や設置小学校の先生方、鳥取市児童家庭課の方にお世話になりました。また、大勢の保護者の方にもこころよくアンケートに答えていただきました。ここに感謝を表し、御礼申し上げます。ここで報告したことが少しでも学童保育の発展に寄与すれば筆者の幸いです。

資料

最後に、1998年5月現在の鳥取市の学童保育一覧を資料として掲げます。

1998年4月現在の鳥取市の放課後児童クラブ

開設場所	児童クラブ名称	設置年
明德小学校	わかあゆ児童クラブ	1966
城北小学校	砂山児童クラブ	1968
日進小学校	やまびこ児童クラブ	1968
浜坂小学校	あすなる児童クラブ	1973
末恒小学校	なかよし児童クラブ	1981
岩倉小学校	ひまわり児童クラブ	1984
中ノ郷小学校	こばと児童クラブ	1995
富桑小学校	くわのみ児童クラブ	1995
湖山西小学校	ほっかばか児童クラブ	1996
若葉台小学校	どんぐり児童クラブ	1997
美保南小学校	あおぞら児童クラブ	1998

ABSTRACT

The purpose of this study was to investigate working and living conditions of people who sent their children to “gakudou hoiku” (care of schoolchildren after school hours) in Tottori city, and to clarify the importance of “gakudou hoiku” for both parents and their children.

In the first research, a questionnaire was prepared to ask about working and living conditions of female parents, daily living of their children, and the needs for better care of them after school hours.

In the second research, another questionnaire was prepared to ask how parents understand “gakudou hoiku”, how parents communicate with their children and advisers, and what parents ask for from “gakudou hoiku”.

The obtained results showed that “gakudou hoik” was indispensable for working female parents and their children and that “gakudou hoiku” was a place for children not only to play but also to lead a life. The results also showed that there were greater demands for the administration in Tottori city to grasp the conditions of “gakudou hoiku” in Tottori city, and to prepare environment and give financial support for “gakudou hoiku”.

key words: "gakudou hoiku", working female parents, family support